

40449

教科書文庫

| |
|-----------------|
| 4 |
| 110 |
| 31-1913 |
| 2000.0 23786 |

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

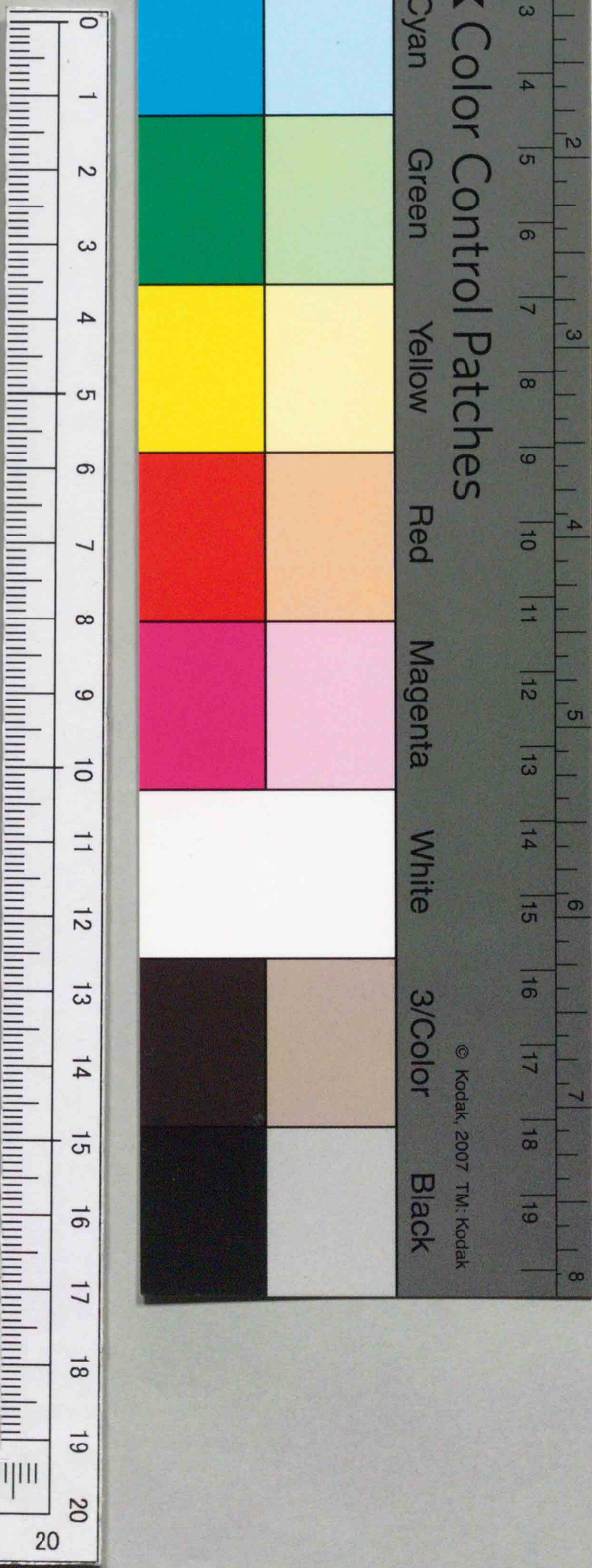


© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



教科書文庫
4
110
31-1913
2000023786

尋常小學修身書卷三

兒童用

文部省



教科書文庫

4

110

31-1913

2000023786

資料室

375.9
Mo14



尋常小學修身書卷三

兒童用

文部省

広島大学図書

2000023786



廣島大學
圖書印

23786

廣島大學
圖書印

もくろく

| | | |
|-----|-----------|----|
| 第一 | くわうごうへいか | 一 |
| 第二 | ちゆうくん | 二 |
| 第三 | かうかう | 三 |
| 第四 | 兄弟 | 五 |
| 第五 | べんきやう | 六 |
| 第六 | きりつ(規律) | 七 |
| 第七 | しやうぢき | 九 |
| 第八 | 友だち | 十 |
| 第九 | 師をうやまへ | 十一 |
| 第十 | きそくにしたがへ | 十三 |
| 第十一 | ぎやうぎ | 十五 |
| 第十二 | ゆうき | 十六 |
| 第十三 | かんにん(堪忍) | 十八 |
| 第十四 | 物ごとにあわてるな | 十九 |

| | | |
|------|----------------------------|-----|
| 第十五 | 祝日 <small>しゆじつ</small> | 二十一 |
| 第十六 | くわうしつをたつとべ | 二十二 |
| 第十七 | けんやく | 二十三 |
| 第十八 | じぜん(慈善) | 二十四 |
| 第十九 | おんをわすれるな | 二十六 |
| 第二十 | けんそん(謙遜) | 二十八 |
| 第二十一 | くわんだい(寛大) | 二十九 |
| 第二十二 | けんかう(健康) | 三十 |
| 第二十三 | じぶんの物と人の物 | 三十二 |
| 第二十四 | きやうどう(共同) | 三十三 |
| 第二十五 | 近所の人 <small>きんじよの人</small> | 三十五 |
| 第二十六 | こうえき(公益) | 三十六 |
| 第二十七 | よい日本人 | 三十八 |

第一 くわうごうへいか



くわうごうへいか
はおちひさい時か
らしつそにあらせ
られ、又下のものを
おあはれみになり
ました。くわうたい
しひにならせられ

てからも、かひこをおかひあそばしたり、い
くさの時にははうたいをおつくりになつ
てぐんじんにたまはつたり、ありがたいこ
とがかずかずございます。

第二 ちゆうくん

和氣清麻呂はうさはちまんの神の御をし
へをうけたまはつてまゐりました。「しんか
のみぶんで天皇の御くらゐをのぞむやう

尋修三

なもの、早くのぞ
けと、神がおつげに
なりました。」と、道鏡
のきいてゐるのも
おそれず、天皇に申
し上げました。

第三 かうかう

わたなべのほろ
渡邊登はうちがまづしい上に、父がびやう



三

二

きになつたので、うちのくらしをたすける
 ために、急をかくこ
 とをけいこしまし
 た。又長い間父のか
 んびやうをして、少
 しもおこたりませ
 んでした。

父母ノオンハ山



尋修三

ヨリモ高ク、海ヨリモフカシ。

第四 兄弟 きやうだい

うちがまづしかつた
 ため、登の弟やいもう
 とは、皆早くからよそ
 へやられました。登が
 十四の年、八つばかり
 になる弟もほかへつ



れられて行くことになりました。その時登
は雪がふつてさむいのに、とほい所までお
くつて行つて、なくなわかれしました。

第五 べんきやう

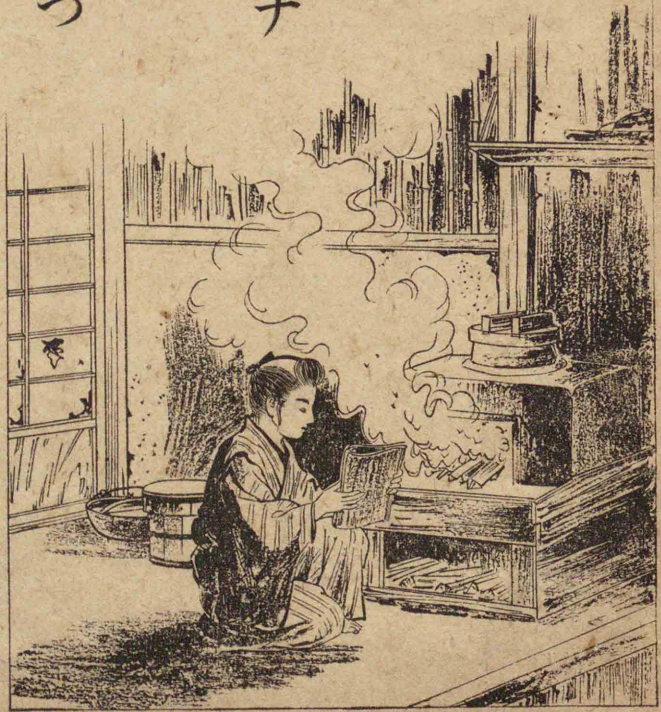
登はゑを賣つてうちのくらしをたすけな
がら、なほなほゑのけいこをはげみました。
又その間にがくもんもしました。がくもん
するひまが少いので、毎朝早くおきて、ごは

んをたき、その火
のあかりで本を
よみました。

カンナン、ナンヂ
ヲタマニス。

第六 きりつ

登はだんだんと重い役を取立てられまし
たが、日日のしごとのじこくをさだめてお





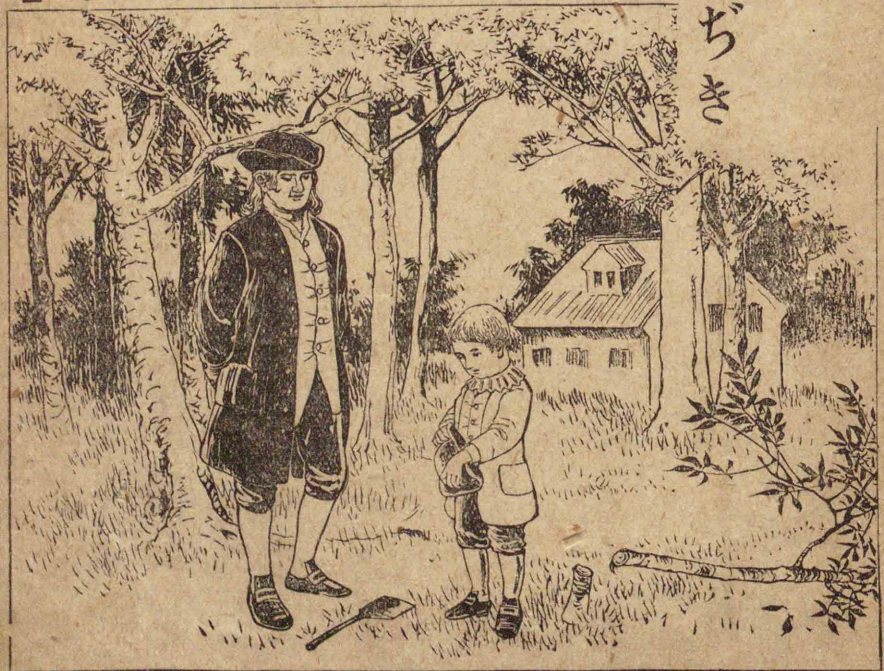
いて、毎日その通り
おこなひました。こ
のやうにきりつた
だしくしましたの
で、忽も大そう上手
になり、がくもんも
すすんで、のちには
えらい人になりま

尋修三

した。

第七 しやうぢき

ワシントンには
へあそびに出て、父
のだいにしてゐ
たさくらの木を切
りたふしました。こ
れはだれが切つた。



九

と父にたづねられた時、「私が切りました」と、かくさずに答へてわびました。父はワシントンのしやうぢきなことをよろこびました。これはワシントンの六さいの時のことでありました。

第八 友だち

昔細井平洲ほそゐへいしゅうといふがくしやがありました。なかのよい友だちがたよつて来た時、長い

尋修三



第九 師をうやまへ

間うちにとめておいて、いつしよにむつましくくらししました。きんじよの人たちは、まことの兄弟だと思つてゐました。

十一

上杉鷹山は平

洲を先生にし

てがくもんをしま

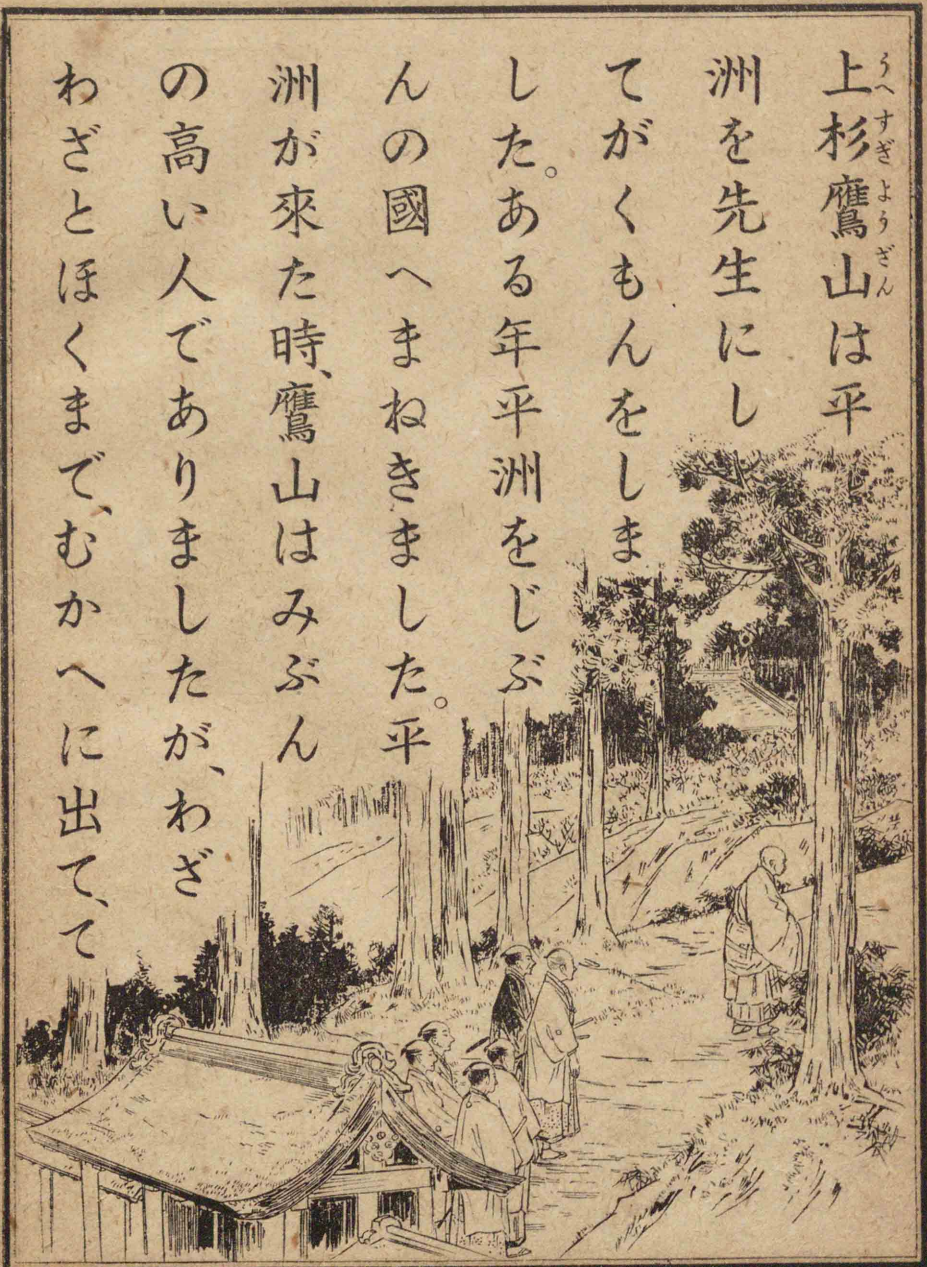
した。ある年平洲をじぶ

んの國へまねきました。平

洲が来た時、鷹山はみぶん

の高い人でありましたが、わざ

わざとほくまで、むかへに出て、



いねいにあいさつをしました。それからき
んじよの寺に行つて休みましたが、途中じ
ぶんが先生よりさきに立つやうなことは
しませんで、ふかくうやまひました。

第十 きそくにしたがへ

春日局かすがのつぼねは、ある夜おそく、おしろにかへつて
來ました。門がしまつてゐたので、あけさせ
ようとしましたら、門ばんの役人が上役の



ゆるしがあるまでは
お通し申すことは出
来ません。と言ひまし
た。局は「それはもつと
もなこと。といつて、さ
むい夜風にふかれな
がら、門のあくまで外
に待つてゐました。

第十一 ぎやうぎ

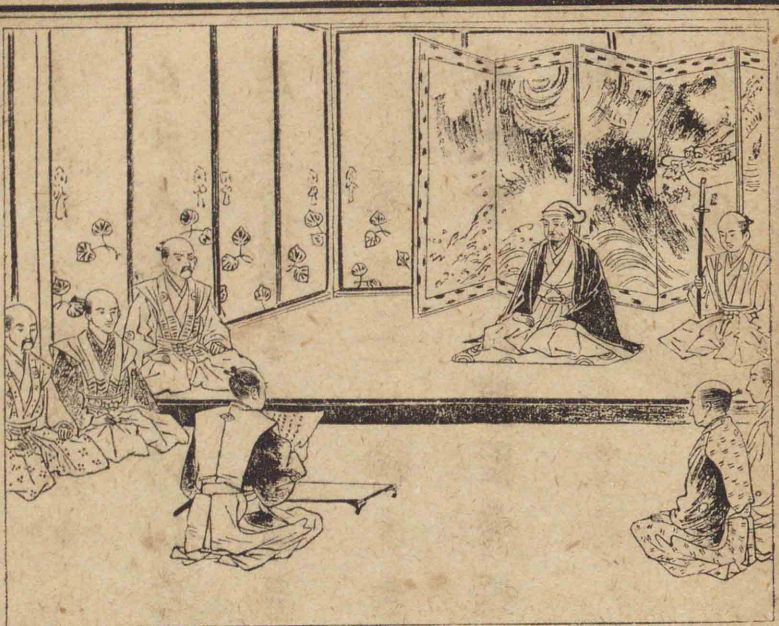
松平好房まつだいらよしふさは小さい時からかりそめにも、父
母の居る方に、足をの
ばしたことはありま
せんでした。よそに行
くときも、かへつて來
たときも、かならず父
母の前に出て、そのこ



とをつげました。父母からいただいた物は
たいせつにして、いつまでも持つてゐまし
た。又人が父母のはなしをすると、いつもた
だしく居なほつてききました。

第十二 ゆうき

木村重成きむらしげなりは豊臣秀頼とよとみ ひでよりのけらいで、ゆうきの
ある人でありました。秀頼が徳川家康とくがは いへやすとい
くさをした時、重成は二十さいばかりであ



りつばに役目をしとげてかへりました。

りましたが、いさまし
いはたらきをしまし
た。間もなく秀頼が家
康とわぼくをするこ
とになつた時、重成は
家康の所へ使ひに行
つて、おめずおくせず

第十三 かんにん

ある時小坊主ぼんずが重成
をさんざんののしつ
た上、打つてかからう
としたことがありま
す。けれども重成はさ
からはずにこらへて
るました。見てゐた人



尋修三

人は重成をおくびやうものと思ひました。
その後、重成がいくさに出て、いさましくは
たらきましたので、ほんたうのゆうきのあ
る人だと、皆皆かんしんしました。

ナラヌカンニン、スルガカンニン。

第十四 物ごとにあわてるな

毛利吉就もりのりよしなりのおくがたは、きんじよにくわじ
があつた時、けらいの人人から早く立ちの

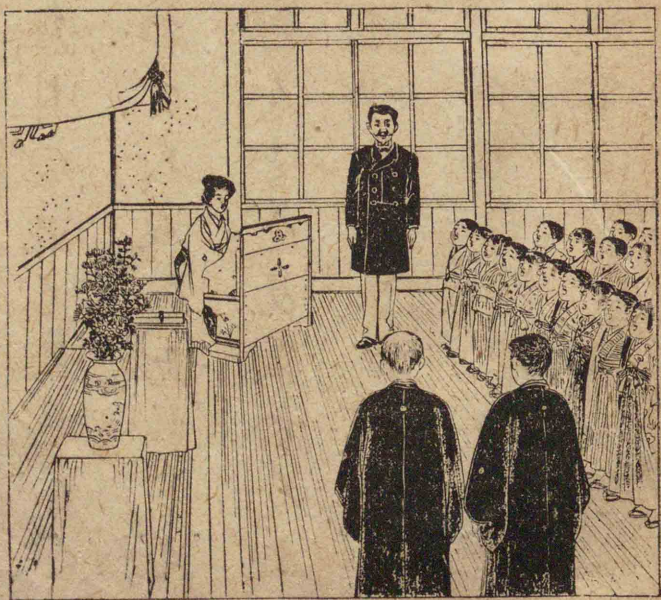


しきはぶじにのこりました。

くやうにとすすめられ
 ました。おくがたは
 おちついてゐて、かへ
 つて人人のあわてる
 のをとどめ、荷物をか
 たづけたり、火をふせ
 いだりさせたので、や

第十五 祝日

わが國の祝日は新年
 と紀元節と天長節天
 長節祝日であります。
 新年は年の始で、紀元
 節は神武天皇が御即
 位の禮を行はせられた日
 であります。天長
 節は天皇陛下のおうまれ
 になつた日で、そ



の御祝をする日が天長節祝日であります。

第十六 くわうしつをたつとべ



徳川とくがは光圀みつくにはふかくく
 わうしつをたつとん
 だ人であります。人人
 に日本のよい國がら
 であることを知らせ
 て、ちゆうぎの心をお

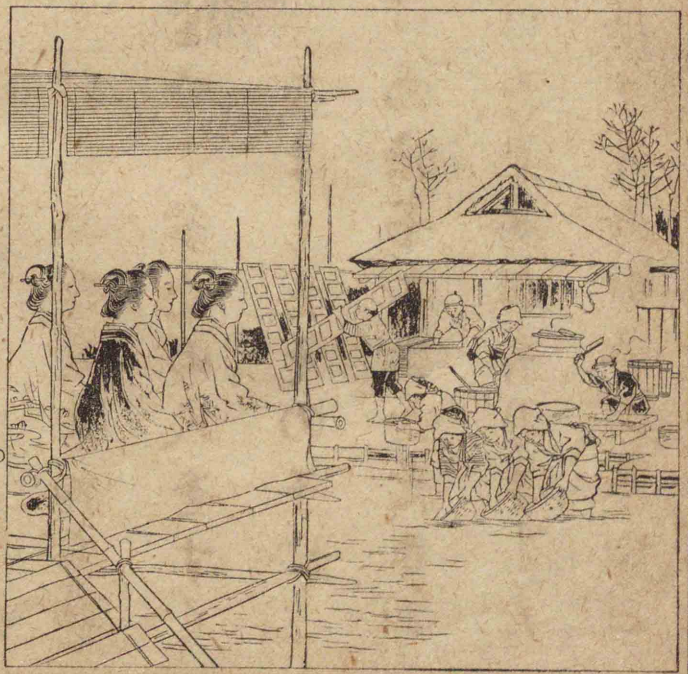
こさせるために、多くのがくしやを集めて、
 日本のれきしを書かせました。又楠木くすのき正成まさしげ
 のせきひをみなとがはに立てて、そのちゆ
 うぎをあらはしました。

第十七 けんやく

徳川光圀は、ちよちゆうたちが、紙をそまつ
 にするので、紙すきばを見せにやりました。
 ちよちゆうたちは、紙すき女が冬の寒い日

に、水の中ではたらいてゐるのを見て、紙をこしらへるのは、たやすい事ではないとさとりました。それからは紙をむえきに使はないやうになりました。

第十八 じぜん



昔ききんのあつた時、鈴木今右衛門ふうふは、田はたや着物を賣つて、多くの人をすくひました。その子にこの時十二さいになるむすめがありました。がある寒い日同じ年ごろの女の子が物も

らひに來ました。それを見て、母はむすめに
「あの子はひとへ物一枚でふるへてゐます。
おまへの着てゐるわたいを一枚ぬいで
やりませんか」と言ひました。むすめはすぐ
によい方のわたいをぬいでやりました。

第十九 おんをわすれるな

彌兵衛の主人が島流しになりました。彌兵
衛は主人のみの上をあんじ、島へ見まひに

行きたいと思つて、先
づ一心に船をこぐ事
を習ひました。それか
ら船のりになつて、は
るばる島に渡つて、主
人にあひました。その
のち、主人がゆるされてかへつてからも、し
んせつにせわをして、よくつかへました。



第二十 けんそん



ぶんはおよばない」と言ひ、晋作もまた「久坂

よしだ しやういん 吉田松陰に久坂玄瑞
 と たかすぎしん 高杉晋作といふ二
 人のすぐれたてしが
 ありました。玄瑞はつ
 ねに晋作をほめて、高
 杉君はえらい人だ。じ

君はりつばな人だ。じぶんはおよばない。」と
 言つて玄瑞をほめました。松陰は二人がた
 がひにけんそんしてほめ合つてゐるのを
 きいて、大そうよろこびました。

第二十一 くわんだい

昔 かひばらえきけん 貝原益軒といふ名高いがくしやがあり
 ました。ある日るすの間に、一人のでしが、と
 なりのわかものとははですまふをとつて、

益軒が大切にしている
たぼたんの花ををり
ました。ではしんぱ
いして、人にたのんで
あやまちをわびても
らひましたが、益軒は
笑つて、そのままゆるしました。

第二十二 けんかう



益軒は小さい時には、からだか弱かつたの
で、つねづねやうじやうをしました。それで
からだか次第にぢや
うぶになつて、八十五
さいまでも長生をし、
多くの本をあらはす



ことが出来ました。

クスリヨリ、ヤウジヤウ。

第二十三 じぶんの物と人の物

馬子が家にかへつて馬のくらをおろすと、
さいふが出ました。これはさ
きにのせたお客のわ
すれたものだらうと
思つて、すぐにその
やどやにかへしに
行きました。お客は



大そうよろこんで、おれいの金を出しまし
たが、馬子は「あなたの物をあなたが受け取
るに、何でおれいがいらいますか。」と言つて、な
かなかうけ取りませんでした。

第二十四 きようどう

としよりが子どもたちに、「この三本のぼう
を立てて、その上に魚本をのせてごらん。」と
言ひましたが、誰にも出来ませんでした。そ



の内一人の子ども
がぼうをよせてひ
もで中ほどをくく
り、はしをひらいて、
その上に魚本をの
せました。そこで、と

しよりは「一本づつでは立たないが、三本い
つしよになると、このやうに立つて、魚本が

のります。人もきようどうすれば、一人一人
で出来ない事もよく出来ます。」と言つてき
かせました。

第二十五 近所の人

佐太郎はうちがまづしかつたけれども、よ
く近所の人たちにしんせつをつくしまし
た。ある時、近所の人の子の家のやねがそんじて
ゐるのを見て、村の人たちから、おらを少し

づつもらひ集め、じぶんも出してそれを直させました。又くわじにあつた人には、じぶんのやぶから竹をきつて来ておくりました。

第二十六 ころえき



かけかへました。それから、こはれること

佐太郎は村役人になりました。村のわうらいの土橋が度度、そんじて、人人がなんぎをするので、佐太郎は仲間の人たちとさうだんして、それを石橋に

もなく、皆皆よろこびました。そのほかに
もいろいろ村のこうえきになる事をしま
したので、佐太郎は村役人のかしらにあげ
られました。

第二十七 よい日本人

よい日本人になるには、忠義の心を持ち、父
母にかうかうをつくし、兄弟仲よくし、先生
をうやまひ、友だちにはしんせつにし、近所

の人にはよくつきあはなければなりません。
ん。

正直でけんそんで、心はくわんだいに、じぜ
んの心もふかく、人から受けた恩をわすれ
ず、人ときようどうしてたすけ合ひ、きそく
にはしたがり、じぶんの物と人の物とのわ
かちをつけ、又せけんのため、にこうえきを
はからなければなりません。

そのほか、ぎやうぎをよくし、かくもんをは
げみ、からだのけんかうにきをつけ、きりつ
をただしくし、ゆうきをやしなひ、又かん
んや、けんやくの心がけがなければなりま
せん。

かやうにじぶんのおこなひをつつしんで、
よく人にまじはり、よのため、人のためにつ
くすやうに心がけると、よい日本人になれ

ます。

をほり

大正二年十二月八日翻刻印刷
大正二年十二月十八日翻刻發行

著作權所有

著作兼
發行者

文 部 省

尋常小學修身書兒童用卷三

定價 金五錢
臨時定價 金七錢

大正二年十二月十日
文部省檢査濟

發賣所

翻刻發行
兼印刷者

大阪書籍株式會社
代表者 三木佐助

印刷所

大阪書籍株式會社

東京市日本橋區新右衛門町十六番地

株式會社 國定教科書共同販賣所

大阪市南區難波芦原町千百八十八番地九



広島大学図書

2000023786

